

小学校 第1学年

A表現（1）ア，（2）ア， B 鑑賞（1）ア

題材名

カラフル いろみず



実践校
垂井町立合原小学校
授業者 竹中 正人
実践時期 2学期
全3時間

つながりを生かす

- 「もの」とのつながりについては、初めて触れる絵の具に十分に慣れることができるように、絵の具や水の分量を児童が自ら調整したり、色水を混ぜたり並べたりするなど、手や体全体の感覚などを働かせ活動ができるようにした。
- 「ひと」とのつながりを大切にし、色と色を混ぜ合わせることで、新しい色が生まれる面白さを友だちと共有できるように、作った色を紹介し合う共有場面や、興味をもった色の作り方を教え合う場面を設けた。
- 「ちから」とのつながりについては、1学期に生活科で育てたアサガオで色水を作った経験を生かしながら、色水の作り方や水の分量を調整することで、濃淡を調整できることを想起できるようにした。また、本題材で色をつくる経験や、色を集めたり並べたりすることで生まれる様子を感じ取る経験が、2年生「ひかりのプレゼント」につながることを踏まえ、様々な色の色水をつくったり、並べたりすることを大切にしたい。

題材の流れ

第1時 色水づくりの方法を知り、関心をもつ。

ペットボトルのキャップ裏に、絵の具を塗り、水を入れて振ることで、色水ができることを伝えた。絵の具や水の量の違いによって、色水の濃さが異なることに気付かせた。また、色水を混ぜ合わせることで、色が変化する様子を見せ、色水づくりに興味をもてるようにした。各自、持参したペットボトルで、3色（赤・黄・青）の色水を作った。

第2時 色水どうしを混ぜて、自分の好きな色水をつくる。

3色のペットボトルの色水を使用し、小さな透明のカップ内で混ぜ合わせることで、自分の好きな色をつくる活動を行った。2色のみを混ぜるだけでなく、混ぜる分量や色を調整しながら生まれる仲間の色にも関心をもって取り組むことができるように、適宜、できた色を全体に紹介する時間を設けた。

第3時 色水をならべ、友だちの活動を見合う。

活動の最後に、1人5つのカップに、つくったお気に入りの色水を入れ、並べて紹介し合った。出来上がった色水を見て、感じたイメージを交流し、おもしろさを共有した。

ポイント1

使用する絵の具を3色（赤・黄・青）とすることで、混色をして新たな色をつくりだすことへの関心を高められるようにした。また、窓際の光が当たるスペースを空けておくことで、色の見え方が変化することに気付くことができるようにした。

水をたくさん入れたら、色が薄くなったよ。青色の色水に、黄色を混ぜたら緑色になったよ。ぼくの好きなオレンジジュースみたいな色水をつくりたいな。オレンジ色をつくっていた、〇〇さんに聞いてみよう。

ポイント2

「色をつくる時間」「ならべる時間」を完全に区切らないことで、ならべた色水からグラデーションに並べようとしていたり、できた色水からつくりたい色水を思い付いたりすることが柔軟にできるようにする。

〇〇さんの色水は、赤色だけど、どれも同じ赤色じゃないよ。だんだんと濃くなっていくように並べていてきれいだな。ぼくも、並べ方を変えてみようかな。

ポイント3

「この色は、何の色に見える。」「この色水でどんなことができそう。」など、色に焦点を当て、児童の発想が広がるような言葉かけを大切にしたい。

作品例



つくった色水をならべ、仲間と見比べて、色の楽しさやおもしろさに気付く。（右）
色水を混ぜ合わせ、新しい色を発見する。（左）

授業を終えて

絵の具の色を3色に絞ったことで、児童から「みんながつくっていない色をつくりたい。」「〇〇さんのような色をつくりたいな。」と声が聞かれ、夢中になって材料と向き合う姿が見られた。また、仲間との交流場면을適宜設けたことで、色に着目しながら色水の見え方やつくり方を伝え合うなど、対話的に活動を進めることができた。